

都産技研の研究シーズを生かす 共同研究の成果展開



都産技研が保有する基盤研究の成果を生かし、独自の技術やノウハウを有する多くの企業や業界団体、大学、研究機関等と協力しながら、製品化・事業化に向けた共同研究を行っています。

基盤研究の成果展開に欠かせない共同研究

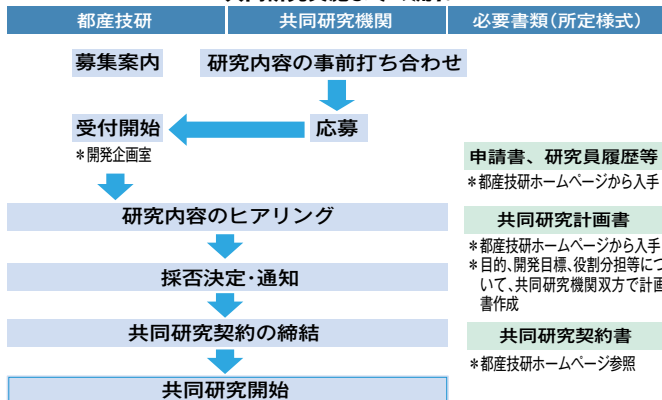
共同研究は、基盤研究の成果を展開する上で非常に重要であり、都産技研では毎年30件以上を取り組み目標に掲げています。共同研究は、①都産技研が独自に行う基盤研究による成果の製品化・事業化に向けて、中小企業等と協力して取り組む場合、②企業等が直面する技術課題に対し都産技研の技術シーズを活用でき、さらなる発展性が認められる場合などに実施しています(企業が保有する技術シーズを生かし、都産技研が側面支援を行う「オーダーメイド開発支援」とは区別されます)。

右図に共同研究実施までの流れを示します。まずはじめに、都産技研の基盤研究シーズに合致するかどうか、研究員と事前打ち合わせを行います。その後、応募の際に提出していただく「共同研究申請書」、都産技研と双方で作成する「共同研究計画書」に基づき、研究内容をヒアリングします。共同研究の目的や目標、必要性や役割分担、経費等を審査し、総合的に採否を決定します。実際の製品化・事業化を行うのは共同研究先企業様になりますが、研究成果への特許、実用新案等の権利が発生する場合、研究成果を使って試作・製品展開をする場合、カタログや広告などに都産技研との共同研究成果であることを記載する場合などは、各種契約の締結(実施許諾契約など)や申請をお願いしています。詳細については、開発企画室までお問い合わせください。

共同研究審査について

- 審査員: 都産技研 審査員
- 採択件数: 23件(平成24年度実績)
- 審査のポイント: ①研究が適切に計画されているか(手法・役割分担等)
②中小企業のものづくりを支援できるか
③製品化・事業化・特許化等が期待できるか
④都産技研の事業への波及効果が認められるか

共同研究実施までの流れ



~担当者から~

共同研究への積極的な応募をお待ちしています

開発本部 開発企画室
副主任研究員 中島 茂 (研究開発事業担当)

今号に登場する製品化事例は平成24年度実績の一部で、これまでに多くの新製品や特許が生まれています。また、国等が公募する外部資金導入研究に採択さ

れ、成果を上げた例もあります。都産技研の基盤研究から生まれた研究成果は、終了後、原則すべてを都産技研の研究成果発表会で公表し、「研究報告」、「TIRI NEWS」、ホームページ、セミナー、学協会発表などで情報発信しています。「都産技研の技術シーズと当社の技術を融合させ

製品化したい」、「自社で解決できない技術課題がある」などのご要望・課題をお持ちの方は、ぜひ都産技研の共同研究事業をご活用ください。

また、P.12「トピックス」では、平成25年度の第1回共同研究募集をご案内しておりますので、あわせてご覧ください。

製品化事例に関するお問い合わせはこちらまで

開発本部 開発企画室 TEL 03-5530-2528 FAX 03-5530-2458 E-mail: Kaihatsu@iri-tokyo.jp

contents

■ 特集 製品化事例紹介

都産技研の研究シーズを生かす 共同研究の成果展開	2
① ゴム用DLC成膜装置と成膜品の製品化	3
② 省エネを実現したLED照明システムの共同開発	4
③ 高齢者用、尾てい骨サポートパンツの商品開発	5
④ 東京スカイツリー® 観光グッズの製品開発	6
⑤ 容り材を用いた薄肉プラスチック製品の開発	7
製品開発支援ラボ入居企業のご紹介	8
シリーズ第4回 産学公連携 コーディネータに聞く	9
多摩テクノ広場	10
インフォメーション	11
トピックス	12

表紙の写真 No.6 共同研究

平成23年度に実施した共同研究「直管形LEDランプの照度調整による省エネシステムの研究」により開発した省エネシステムのコントローラ。デザインの支援も都産技研が行いました。都産技研では、都内中小企業や大学等と、製品化・事業化を目的とした共同研究を年2回募集しています。共同研究からは多くの製品が生まれています。

